

学術論文等の 即時オープンアクセス義務化について

2025.6.17 令和8年度科研費獲得支援セミナー
附属図書館eリソース課

即時オープンアクセス(OA)の義務化

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

令和6年2月16日統合イノベーション戦略推進会議決定

理念

公的資金による研究成果の
国民への還元と地球規模課題の
解決に貢献

国全体の購読料と
オープンアクセス掲載料の
総額の経済的負担の適正化

我が国の研究成果の
発信力向上

方針

2025年度新規公募分*から、一部の競争的研究費制度において
学術論文および根拠データの即時オープンアクセスを義務化

*学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度を対象

- [「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」](#)
- [「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策](#) および [具体的方策に関するFAQ](#)
 - 2024年10月改正 関係府省申合せ
 - 基本方針で示された義務化のより詳しい要件をまとめたものとFAQ
 - 即時OA実施状況は、[資金配分機関への実績報告において記載](#)する

即時オープンアクセス(OA)の義務化の対象

2025年度新規公募分から一部の競争的研究費制度において
学術論文および当該学術論文の根拠データの即時OAが義務化

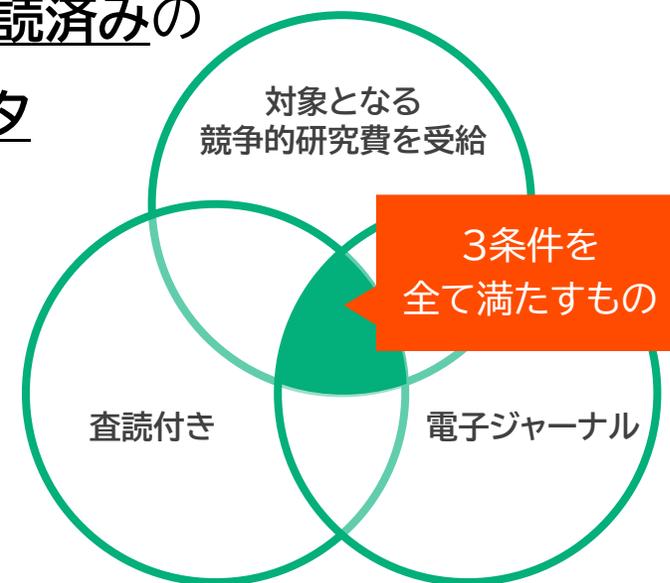
▼対象となる制度

日本学術振興会(JSPS)
科学研究費助成事業
科学技術振興機構(JST)
戦略的創造研究推進事業 ※一部除く 創発的研究支援事業
日本医療研究開発機構(AMED)
戦略的創造研究推進事業 (革新的先端研究開発支援事業)

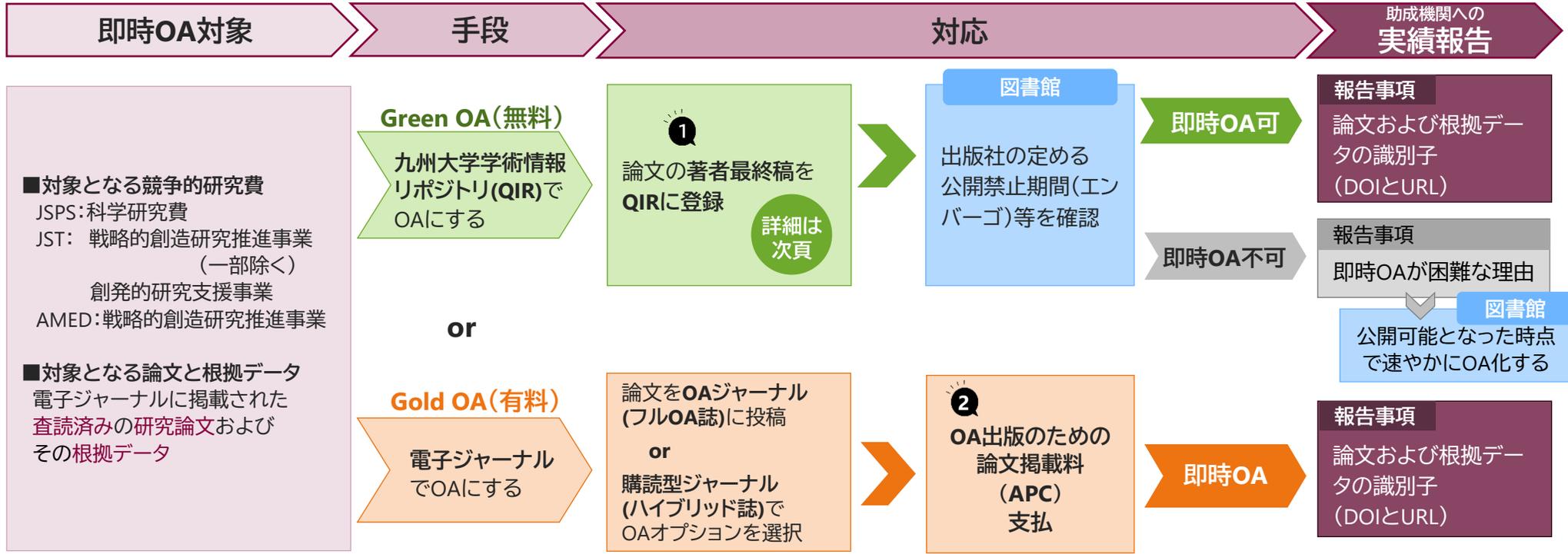
▼対象となる論文とデータ

電子ジャーナルに掲載された査読済みの
研究論文 および その根拠データ

- ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、公表が求められる根拠データ
- 公表を前提としていないデータは含まない



即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける



Point 1 著者最終稿とは:
 査読が完了し、出版社に受理され、出版社による校正や組版が行われる前のバージョンです。
 author accepted manuscript, accepted manuscript, accepted version, post print, peer-reviewed version 等と呼ばれることもあります。

Point 2 九州大学におけるOA出版のための論文掲載料(APC)支援:
 図書館ではElsevier、Wiley、RSC(Royal Society of Chemistry)の3社と「OA出版モデル契約(転換契約)」を締結し、オープンアクセス出版のための論文掲載料(APC)支援を実施しています。
 詳細: <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/gold/apc>
 研究・産学官連携推進部が行っているTop10%ジャーナルへの論文投稿支援があります。
 詳細(学内限定): <https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/university-relations-only/publication-fee-support/>



根拠データとは?

即時OAの対象となっている根拠データは、ジャーナルの執筆要領、出版規程等において透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データをさします。Supplemental Data等の公表を前提としているデータであり、査読の過程等で求められるデータ等、公表を前提としていないデータは含みません。



プレプリントサーバでの公開は国の即時OA義務化に対応していますか?

科学研究費の場合は、プレプリントサーバ(例: arXiv, BioRxiv等)に査読済みの著者最終稿を公開していれば、対応したことになります。他の競争的研究費については、今後、システム連携される見込みです。情報がアップデートされたらお知らせします。



右記の方法があります



教員活動進捗・報告システム
(Q-RADeRS)から登録



図書館Webサイト
> マイページから
SSO-KIDでログイン・登録



メールで送付
リポジトリ係へ連絡
qir@jimu.kyushu-u.ac.jp

Coming Soon!

2025年秋には
リポジトリ登録支援機能を
新たに公開予定

Q-RADeRSからの登録方法

① Q-RADeRSへアクセス(SSO-KIDでログイン)

学内・学外からアクセス可能:
<https://researcher-db.ir.kyushu-u.ac.jp>



② 「研究活動」登録画面の「学術リポジトリ」で 該当の項目を選択

③ 本文ファイルをアップロード

④ 図書館側の作業(著作権確認等)を経てQIRに登録・公開

登録後、研究者情報にQIRのURLが表示されます

❗ 出版社の著作権ポリシーにエンバーゴ(公開禁止期間)がある場合は、エンバーゴ終了後に自動公開するように設定します

登録方法の詳細

https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/qir/oa_q-raders

研究成果の公開(論文や研究データの公開等)に関する情報は、
図書館Webサイトの下方にある“No Open Access, No Science” →
と書かれたバナーからご確認ください。
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/open>



お問合せ

リポジトリに関して
リポジトリ係
Tel: 092-802-2459
Mail: qir@jimu.kyushu-u.ac.jp

APC支援に関して
eリソース管理係
Tel: 092-802-2489
Mail: toemanage@jimu.kyushu-u.ac.jp

お願いしたいこと・おすすめしたいこと

- 論文の投稿先を決める段階で、**共著者と、オープンアクセスにする手段を確認**しておくことをお勧めします。
- **リポジトリだと無料でオープンアクセス**にできます。
- **著者最終稿**は、手許に保存しておいてください。
- 即時OA義務化の対象となっている**根拠データもリポジトリで公開**できます。
- **APC支援**があるかどうかをご確認ください。
 - 図書館のAPC支援： いくつかの出版社に限定，一部著者負担あり
(2025.6時点ではElsevier/Wiley/RSC, 著者はAPC定価の3割を負担)
 - トップジャーナル投稿支援： 若手/獲得している外部資金の額の上限あり

研究者にとっての 研究成果のOA化の意義・優位性

オープンアクセスとは

「経済的、法的または技術的な障壁なく、すべてのユーザーが、論文のフルテキストを読んだり、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、または、リンク、インデックス作成のためのクロール、ソフトウェアへのデータとしての投入、その他の合法的な目的で、公衆に開かれたインターネット上で無料で利用できるようにすること」(Budapest Open Access Initiative (BOAI) 宣言 (2002年))

研究成果のインパクト向上

- 研究成果のインパクト向上等へのアドバンテージ
- 研究成果が発見されやすくなる
- 世界的なOA化進行による、非OA論文の「見えない化」が進むリスクに対応

社会への還元/オープンサイエンスの推進

- 誰もが論文にアクセスできる
- 学術研究の発展に寄与
- 研究成果を社会に還元できる

参考:

- 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」:
https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf
(英語仮訳) https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216_en.pdf
- 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策:
https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf
(英語仮訳) https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_en.pdf
- 具体的方策FAQ:
https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_houshin_faq.pdf
- ※上記ファイルの掲載場所は内閣府 > 研究DX <https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>
- 九州大学オープンアクセス方針:
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/qir/oa_policy

お問合せ:

- APC支援について:

toemanage@jimu.kyushu-u.ac.jp

(eリソース管理係)

- リポジトリについて:

qir@jimu.kyushu-u.ac.jp

(リポジトリ係)

附属図書館「研究成果の公開」ページ

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/open>